



2024.2.20

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

ドキドキの遊戯会

17日の遊戯会にはお出かけくださりましてありがとうございました。
「ドキドキ遊戯会」としたのは、本番を迎える子どもたちも先生たちもドキドキ、もう一つのドキドキはここ最近流行しているインフルエンザやコロナ感染で、欠席者が増えたらどうしよう、学級閉鎖になったらどうしよう、というドキドキでした。

特にインフルエンザは近隣の小学校や中学校で学級閉鎖のニュースが伝わってきて、じわじわとわが園にも迫ってきていたのです。またコロナ感染は年末年始で多くの人の移動があったため、感染者数がどんどん増え、第10波との緊急宣言も出され、警戒をしていました。私の周りでも感染された方が増え続けていました。16日の新聞で、やっと12週ぶりに前週と比べて減少したというニュースが掲載され、このまま感染者数が減少し、落ち着いてくれることを祈るばかりでした。そのドキドキの心配をよそに、なんとか遊戯会を開催することができてほっとしております。

さて、お子さんの演技をご覧になり、いかがでしたでしょうか。幼稚園に入って初めての遊戯会をご覧になった方も、2年目・3年目と経験されてきた方も、すべての保護者様がお子さんの成長ぶりに驚かれたのではないのでしょうか。きっとご家庭でも幼稚園で練習したことをご家族の前で披露していたと思います。ある程度、楽器演奏・遊戯・劇遊びとお子さんを通じて想像されていたと思いますが、やはり本番で衣装を着けて、クラスのお友だちと披露される姿は特別なものがあると思います。

私も舞台練習で、各クラスの練習風景を見ました。しっかり出来ているところはいっぱい褒めて、足りないところやまだまだ出来ていないところは、子どもたちに「もっと大きな口を開けて、はっきり声を出すとお客さんに届くよ。」と指導しました。やはり具体的に見本を見せて提示しないと子どもたちに伝わりません。そうやって練習を重ね、本番を迎えました。中には大勢のお客様を前にして、動きが止まってしまうお子さんもみえましたが、ちゃんと練習では出来ていましたよ。安心してくださいね。

クラスのお友だちと力を合わせることも学び、いよいよ卒業・進級と年度末に向かっていきます。少しずつ暖かくなり季節も春へと動いていきます。その成長に喜びと別れの悲しみと・・・複雑な思いの2月です。



心が痛むニュース

皆様もご覧になったと思いますが、4歳の女の子が薬で殺されたのではないかと両親が逮捕される事件が起きました。逮捕後、母親は黙秘し、父親は容疑を否認しているそうです。過去に子どもたちが児童センターに引き取られたり、次女だけを1週間も預けっぱなしで出かけたりと、問題のある両親だったと想像できますが、なぜ児童センターはその事実を把握しながらも親元に返してしまっていたのだろうか、と疑問に思います。

今は「189」の番号にかけると、児童相談所に相談できる全国共通の番号ができました。ご本人はもちろん、ご近所の方でも虐待を心配される場合、通告・相談ができます。子どもたちや保護者のSOSをいち早くキャッチするということで通話料はかかりませんし、通告・相談は匿名で行うこともでき、その内容に関する秘密は守られます。

子育ても時代と共に変化してきました。私が幼い頃（60年以上前）、父親はとても厳しく怒鳴られたり叩かれたりは日常茶飯事でした。そういう育て方をされた私は、時々子どものお尻を叩いてしまいました。父親の叱り方しか知らなかった自分を、今では反省しています。よく手をあげてしまう親が「しつけのつもりだった。」と言います。また虐待を受けた子どもは、自分が親になった時に同じ傾向になると言われますが、それしか知らないから繰り返してしまうのではないのでしょうか。だからといって虐待をすることは許されません。

どこまでがしつけで、どこから虐待になるのか、子育ては難しいと思います。誰もが完璧にできるわけではありません。失敗を繰り返しながら親も成長するのです。もし悩んだら「189」に相談してみてくださいね。

